

秋竹小

メル・ポケ通信 2019年1月号

(メルヘン ポケット)



1月15日(火)に、全学年を対象に、今年度8回目の“読み聞かせ”を行いました。
今回読んだ本をご紹介します。

1年生 ★『おべんとうをたべたのだあれ』 神沢 利子(作) 柿本 幸造(絵)
ひさかたチャイルド

おべんとうを持ってのいちごつみに出かけた女の子。でも、おべんとうの中身がなくなつて…。さあ、食べたのはだれでしょう？

★『十二支のはじまり』 いもとようこ(作・絵) 金の星社
十二支は、ねずみ、うし、とら、うさぎ、たつ、へび、うま、ひつじ、さる、とり、いぬ、いのししと12種類の動物がきめられています。では、どうしてきまったのでしょうか？ねずみがはいっているのに、ねこははいっていないのは、なぜ？そして、ねこがねずみをおっかけるのはなぜ？このお話をよめば、わかります！

2年生 ★『すてきな三にんぐみ』 トミー・アンゲラー(作・絵) 偕成社
黒マントに黒ぼうしの三にんぐみのどろぼうは宝あつめにむちゅうでした。ところがある日さらってきた子どもに宝のつかいみちをきかれすてきなことをおもいついたのです。

★『どろんこハリー』 ジーン・ジオン(作・絵) 福音館書店
ハリーはくろいぶちのあるしろい犬です。なんでも好きだけどおふろに入ることだけは大きらいでした。あるひおふろにおゆを入れる音がきこえてくると…。

3年生 ★『おまえ うまそうだな』 宮西達也(作・絵) ポプラ社
大昔のある晴れた日たまごからかえったアンキロサウルスの赤ちゃん。ティラノサウルスの事を「おとうさん」とおもいこみきずなが生まれる。「ぼく、おとうさんみたいになりたい！」と言われ、心がズキズキ痛むティラノサウルス。子どもの無邪気で純真な心に触れて、心あたたまる本です。

★『あらしのよるに』 きむらゆういち(作) あべ弘士(絵) 講談社
ある嵐の夜一匹のヤギが山小屋に避難した。同様に一匹のオオカミも同じ山小屋に避難してきた。お互い話していくと意気投合した。そして「あらしのよるに」と合言葉に翌日会う約束をする。2匹の「ひみつのともだち」の話。

4年生 ★『アリババと四十人の盗賊』 曾根 千尋(文) 池田仙三郎(絵)
日本教材文化研究財団

これは遠い昔ペルシアの国のある市に住んでいたアリババのお話です。貧しいアリババはある日森の中で40人の盗賊を見かけます。ふしぎな呪文をとなえろと石の扉が開いて中にはたくさんのお宝が！

★『くうき』 まど みちお(詩) ささめや ゆき(文) まどみちおの絵本
「くうき」は、だれかれのへだてなくまったくふつうに気づかせもせずそこにいてくれる。すべてのなかにゆきわたりあらゆるものをつないで流れていく。

5年生 ★『ともだちのしるしだよ』 カレン・リン・ウィリアムズ カードラ・モハメッド(作)
ダーク・チャーカ(絵) 岩崎書店

難民キャンプに暮らす、リナとフェローザ。2人の少女が片方ずつみつけた一足のサンダルはかけがえのない友情のあかしとなったのでした。「なぜ、私たちみたいな子どもを描いた本がないの？」という1人の難民の少女の言葉をきっかけに生まれた物語。

6年生 ★『初天神』

川端 誠（作・絵）

クレヨンハウス

学問の神さま菅原道真をまつる天満宮の縁日は毎月25日。新年になってから天満宮にはじめてお参りに行くことを“初天神”といいます。金坊とお父さんは連れだってお参りへ。途中の屋台店で金坊はわたがし、たこやき、あんずあめとおいしそうなものをねだりますが、お父さんは「あれはどくだ」とごまかします。しかしよいよ根負けして飴を買うはめに。でも、飴あげに夢中になったのはお父さんでした。

★『めぐろのさんま』

川端 誠（作・絵）

クレヨンハウス

お殿様一行が馬を駆りひなびた里へさしかかったお昼どきさんまのやけるにおいが漂ってきました。殿様は鼻をピクピク「さんま？それはなんじゃ。」はじめて口にし「さんまとは美味」「目黒はよいのう。かわりをもて！」とご満悦。城に帰っても目黒で食べたあのさんまの味が忘れられません。そこで無理をいい、ようやく口にしたさんまとは！？

今回のメル・ポケは いかがでしたか？

★ 次回のメルポケは

2月12日(火)8:30~8:45です。

(朝の読書の時間)

お楽しみに♪

★《うちのかたへ》

読み聞かせを楽しんでいるお子様たちの様子
を見にきてみませんか？

どうぞお気軽にお越しください。お待ちしております♪